

第 8 9 6 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 4 年 3 月 2 4 日（木） 9 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 第 1 会議室

益田市教育委員会

第 8 9 6 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 4 年 3 月 2 4 日（木） 9 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市役所 第 1 会議室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認

第 2 教育長報告

第 3 議題

議第 4 号 益田市教育委員会公告式規則及び益田市教育委員会事務局組織規則の一部改正について

議第 5 号 教育財産（旧二川小学校施設）の用途廃止について

報第 7 号 第 5 5 3 回益田市議会定例会一般質問について

報第 8 号 令和 3 年度益田市一般会計 3 月補正予算について

報第 9 号 令和 4 年度益田市一般会計予算について

第 4 その他

(1) 情報提供

- ・日本遺産シンポジウム及び関連イベントについて

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

高 市 和 則
梅 津 富美子
中 野 純
大 庭 隆 志
齋 藤 哲 瑯

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
文 化 財 課 長
美 都 分 室 長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 主 任 主 事

野 村 美夜子
大 畑 伸 幸
長 嶺 勝 良
田 原 啓 文
松 元 善 生
山 本 浩 之
田 中 一 史
齋 藤 勝 義
岩 崎 俊 也

高市教育長 ただいまより第896回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況でございます。

2月22日でございます。益田市と益田市教育委員会また県立大学と教育連携協議会を開催いたしました。こちらは、益田市教育委員会ははじめ益田市と島根県立大学といろいろな共同研究等を行っているところでございます。今年が2年目です。今年度の報告と、来年度どのような共同研究をしていくのかというところを議論させていただいたところでございます。

続きまして、2月24日でございます。益田市と東京学芸大学、あとDynaBook株式会社による実証研究事業成果発表会を行いました。こちらにつきましても、3者において以前からタブレット等を使った学校教育の在り方を一緒に共同研究してきているものでございます。その成果について発表し、各小・中学校から1名、必ず出席をするというところで、そういう事例の発表等を市内の小・中学校において共有させていただきました。

続きまして、2月25日でございます。第553回益田市議会、開会をいたしました。

3月3日でございます。臨時教育委員会を開催させていただいたところでございます。

3月5日でございます。ひとが育つまち益田フォーラム2022を開催いたしました。こちらについては、社会教育またいろいろな活動についてご発表いただきました。教育委員会といたしましては、小中一貫教育について1つ分科会を設け、そちらで議論等をさせていただいたところでございます。そういった会議の中でいろいろとご意見をいただいたところでございますので、そういったものを今後の中高一貫教育の推進に向けて活用させていただきたいと考えております。

あとは、3月16日、17日でございます。来年度の教育委員会の予算について審議をいただきました。

3月18日でございます。益田東中学校の避難路が完成をしたということで、こちらは市長と私で現場を視察いたしました。18日以降、子ど

もたちも使えるように、また地域の方々も避難をする際に使っていただく道ということで開放しています。幅が6メートルで、車も対向で行き来可能です。また、そうしながらも子どもたちがその道を歩ける、自転車で移動できる広い道となっています。以前の使っている道が非常に狭くて、車が1台通ると歩行者が通る幅を確保することがとても難しい場所でしたけれども、避難路というところもあり広くなって、また夜間においてもきちんと道が使えるようにということで、照明がついている状況になっています。またぜひ先生方、機会があれば見ていただければと思っております。

3月19日でございます。こちらは豊田公民館で歴史を活かしたまちづくりシンポジウムが開催をされました。こちらにつきましては、高津川を活用してどうやってまちの景観等を維持していくのか、また景観を生かしたまちづくりというものはどういうことが考えられるのかということでシンポジウムを開かれたものでございます。こちらにつきましては、文化庁の調査官、また久留米工業大学の大森先生にもご出席をいただいて、高所大所からいろいろとご示唆をいただいたところでございます。

3月23日でございます。昨日でございますけれども、益田市議会、閉会をいたしました。こちらで令和4年度の予算等の可決をいただいたというところでございます。可決をいただいた予算を来年度以降、着実に実施をしていくということでやっていきたいと思っております。

教育長報告としては以上でございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

第3 議題

○議第4号 益田市教育委員会公告式規則及び益田市教育委員会事務局組織規則の一部改正について

高市教育長

それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

本日審議事項が2件、報告案件が3件でございます。

議第4号益田市教育委員会公告式規則及び益田市教育委員会事務局組織規則の一部改正についてでございます。事務局より説明をお願いします。

長嶺課長

特別に教育委員会が何かということではなくて、益田市として美都総合支所、匹見総合支所としております。これを総合支所という部分をやめまして、美都地域振興課、匹見地域振興課という位置付けのものになっています。全体的に行政機構の何か業務が変わるかということ、それは変わらずに、総合支所という名称をやめたというところです。

教育委員会の規則の中に、いろいろな条例や新しい規則をつくったとき

には、市庁舎の前に掲示をします。掲示する場所は、益田市役所の本庁舎前、それから美都総合支所前、匹見総合支所前と記載がありますが、総合支所自体がなくなったということで、市役所前、美都総合支所前、匹見総合支所前というのを削除するということが規則改正になっております。今後、掲示については益田市役所前となるということです。美都や匹見のほうでは掲示をあえていたしませんということが教育委員会公告式規則の改正です。

あわせまして、教育委員会事務局組織規則の一部改正という部分も、総合支所という言葉が出てきますので、総合支所という言葉削除するということでもあります。

全体的に教育行政上、何か変わるかというと、大きく変更はありません。文言を整理したという内容になります。以上です。

高市教育長 ありがとうございます。そうしましたら、本件、採決に移りたいと思います。それでは、この件について承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員 ＝全員挙手＝

高市教育長 挙手全員ということで、承認されました。つきましては、事務局におかれましては必要な手続等を進めていただくようお願いいたします。

○議第5号 教育財産（旧二川小学校施設）の用途廃止について

高市教育長 続きまして、議第5号教育財産（旧二川小学校施設）の用途廃止についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

田中分室長 1点目です。経過としまして、平成24年度をもちまして二川小学校が統合されました。その後、その建物の活用につきまして地域を中心に話し合いをされております。その結果、来年度におきまして青少年を対象とした宿泊施設を有する地域拠点に改修をするということで、改修をすることとなっております。

2点目です。今現在、建物、校舎、体育館、それから土地が教育財産となっておりますので、これを、今後の予定でありますけれども、定例教育委員会におきまして用途廃止の承認をいただきまして、所管換えを行います。政策企画局が所管換えを行いまして、事業を実施していくという予定となっております。以上です。

梅津委員 旧小学校跡地が青少年を対象とした宿泊機能を有する地域の拠点施設になると決まったということで、喜ばしいことだと思います。

まだだと思いますが、所管換えした後は、どのような形態で管理されるのか、分かれば教えていただければと思います。

田中分室長 現在、予定としましては、地元の地域自治組織が積極的に施設の管理そ

れから宿泊等のところに関わっていきたいというところを表明されております。今後、指定管理につきましては公募等を行いますけども、今後、指定管理をやっていきたいと思っています。

梅津委員

ありがとうございました。

高市教育長

今後は市役所内ではどこの課が具体的に担当してされるのでしょうか。

田中分室長

政策企画局の連携のまちづくり推進課が担当課となります。美都も協力して一緒にやることになっています。

高市教育長

ありがとうございます。そうしましたら、本件、採決に移りたいと思います。それでは、この件について承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員

＝全員挙手＝

高市教育長

挙手全員ということで、承認されました。つきましては、事務局におかれましては必要な事務手続等を行うようお願いをいたします。

○報第7号 第553回益田市議会定例会一般質問について

高市教育長

続きまして、報第7号第553回益田市議会定例会一般質問についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

野村部長

私のほうから3月定例会における一般質問の概要についてご報告申し上げます。資料をご覧ください。

今回は、議長を除く21名の議員のうち、全員で17名が一般質問に立たれました。そのうち教育委員会に対して質問された議員さんは、会派を代表されての質問が5名、個人としての質問が8名、計13名の方のご質問を受けたという状況でございます。

それでは、質問された順に沿って、資料に基づいて概要をご説明申し上げます。

代表の佐々木恵二議員さんです。令和4年度 of 取組方針、令和4年度の主要施策についてということで聞かれております。内容としましては、益田市型中高一貫教育、そして地域自治組織等に対する中間支援組織であります一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー、通称ユタラボの活動について、そして最後に今建設中であります真砂小学校について、この3点を質問されました。

まず、益田市型中高一貫教育についてですが、これについては、今後の展望、そして学力向上につながるような取組にするべきではないかというところをご質問されました。回答といたしましては、益田市未来の担い手育成コンソーシアムの中での協議を進めるとともに、子どもたちの学力育成に資する活動として頑張っていきたいという内容を答えております。

ユタラボについてです。設立から2年が経過したが、事業効果と今後の

展望について問うというところで、答えとしては、数字も交えてかなり細かくお答えをしております。教育委員会が所管する部分とそれから政策企画局の連携のまちづくり推進課が所管する部分がありますので、資料のほうには教育委員会が所管する部分のお答えとして1ページから2ページに書かせていただいております。非常に精力的に活動しております、こういった形での活動に対しての外部からの視察なども受けるような状態になりました。ユタラボについては、今後は自立した団体へと成長されることを期待するということで終わっております。

3点目、真砂小学校についてです。地域の複合拠点施設として整備をしているわけですが、その狙いと地元住民との合意についてはどうかというところです。お手元の資料の2ページに書いておりますが、地元との合意形成も、地域自治組織と我々で本当に何回も何回も綿密に行ったというところです。こういった綿密な協議によって全国的にも新しい取組である、小学校を核とした、地域のコミュニティーの核となる複合化施設というところの建設に対して進んでいきたいという内容でお答えをしております。

続いて、代表の2番の弘中英樹議員さんです。資料は3ページです。質問の項目としては、コロナにおける小・中の休校時の端末の活用について、それから文化財保存活用地域計画の取組状況について、そして歴史民俗資料館、今（仮称）ビジターセンターというところで改修を予定しておりますが、その状況について、そして最後に小中一貫教育の質の向上についてというところでご質問を受けました。小・中のコロナの休校に関しましては、端末の活用については、各学校、令和3年度の中で持ち帰る準備を整えて、持ち帰らせております。様々な活用をしておりますということをお答えしております。

文化財保存活用地域計画の取組状況ですが、この計画を策定することによって国の有利な財政支援等も受けられる状況がございまして、ハード、ソフト、両面で取組を進めて行っているという状況でございます。

3点目の歴史民俗資料館の今後の在り方です。先ほど申し上げましたように、ビジターセンターとして改修を進めているところでございます。今後は歴史を活かしたまちづくりの推進というところで、地元の活動の育成、そういったことも含めて充実を図ってまいりたいというところをお答えしております。

資料の4ページに行きます。小中一貫教育の質の向上というところで、議員さんは、義務教育学校という発言も出たのですけれども、小中一貫教育をもっと進めるべきではないかという立場でご質問されました。お答えとしては、中学校区での取組に対する支援を強めていきます。そういったことから、今、義務教育学校等の設置等は考えていませんというところをお答えしているところです。

それから、福原宗男議員さんです。この方も代表です。4ページから5ページにかけてです。福原議員さんは、中学校の子どもたちが、都会に一旦出ても、通勤時間等がかかって、都会での生活も結構大変だということの話が出た際に、そういうことの認識がなかったから、学校で伝えてほしい、そういうことはできないのかと、そういう趣旨のご質問でした。お答えとしては、ライフキャリア教育を益田市は進めておりますので、そういった中でこのような視点での議論というのも必要かもしれませんので、そういった場もつくっていきたいとお答えをしているところです。

続いて、代表、三浦議員さんです。資料5ページです。令和4年度の施政方針について聞かれております。まず、真砂小学校について、続いてICTについて、続いて中高一貫について、最後、食と農についてというところで聞かれました。

真砂の取組については、先ほど佐々木恵二議員さんのところでも触れましたが、今回、注目される取組ということで、取り上げる議員さんも複数おられました。国のそういった面での特別な財政措置もいただいたところでございまして、地域コミュニティの核として取組を進めていくというお答えにさせていただきました。

続いて、ICTの活用です。資料は5ページの終わりから6ページにかけてですが、教職員のICTの力をもっとつけなければいけないのではないかという、そういったお考えの質問でした。お答えとしては、研修を進めていきます。これによってより積極的な活用の充実を図ってまいりたいというお答えをしております。

続いて、中高一貫教育です。小から中、中から高という接続を一貫した流れで見守っていくのが必要ではないのかというご質問でした。お答えとしては、本当にそのとおりでございまして、我々としても保・幼・こ・小・中そして高という流れをととても大切に考えていますので、そういった流れを大事にしながらいろいろな取組を進めたいというお話をさせていただきました。最後に、食と農についてです。数年前にますだ食と農の基本計画という計画ができておりますが、これは議員提案としてこういったものができたという流れがございまして、議員さんとしては、学校給食における食と農の大切さを子どもたちに伝えることを頑張ってもらいたいという、そういったお話でした。産業経済部がこれを引っ張るところでございしますので、そことの連携を強めていきますと回答しております。

続いて、大久保五郎議員さんです。資料7ページです。大久保議員さんは、令和4年度施政方針と教育の取組方針について聞かれました。まず、施政方針のほうは、交流事業というくくりで、文化財課が関わっております、今、千葉の国立歴史民俗博物館で開催されております企画展について、どういう情報発信をしていくのかというご質問でした。様々取り組んで現

在に至っておりますが、ご承知のようにいろんなチラシも作りましたし、市のホームページ等でも発信しております。いろいろなSNSの活用もしております。民間の方々による活動も活発になっておりまして、今度27日にシンポジウムも開催されますし、月がかわって来月はツアーの造成も計画されておりまして、今募集をされているところです。こういったことを通じてしっかり益田市をPRしていきたいと考えているというお話をさせていただきました。

続いて、教育の取組方針のほうは、最初に大久保議員さんは、教育長、就任されて1年経つが、所感を聞くというところで、教育長のほうからは、益田市というのは非常に地域の力というものが子どもたちによい影響を及ぼしているという、そういった話と、来年、令和4年度に向けては、中高一貫をはじめとして様々な課題に取り組んでいくということをお話しさせていただきました。

資料8ページです。大久保議員さんの2学期制に対するご質問です。大久保議員さん、以前から2学期制に対しては非常に思い入れがあるといいますか、視察も行っておられて、質問を度々されております。2学期制についてどういう成果と課題があるかと、また今後の取組はどうかとご質問でございました。2学期制が始まった初年のところからコロナによる休校等が度々ありまして、なかなかしっかりとした検証を行うことが実は困難な状況はございました。そういった中でも、学校の2学期制導入に対しての検証としては、児童と関わる時間を確保できた、多忙感を感じる教職員の数が僅かに減ったという、そういった状況であるということ。それから、今、非常に教員不足が叫ばれておりますが、そういったことに対してはどのように対応するかというところで、県の動きをしっかりと確認して、市も必要な情報発信をするし、また益田市の教育であるとか学校が魅力的な職場であることが非常に大切だと思うという、そういったお話をさせていただいております。

そして、定着度調査、いわゆる埼玉学テと呼ばれておりますが、定着度調査と全国学力・学習状況調査についても聞かれました。定着度調査については、普通に伸びて3、なのでそれを少し超える3.1というところを目標にしているわけですが、残念ながら初年の比較として3.1は達しなかったのですけれども、今後としては、児童・生徒を伸ばした教員の指導方法をみんなで学ぶ機会をつくって、きめ細かい指導を実施していきたいというお話をしております。

全国学テについては、県学テも同じですが、課題が大きい状況でございます。こういった取組ができるかというところをしっかりと確認しながら、学校と一緒に取り組んでいきたいというお話をしております。

続いて、寺戸真二議員さんです。ここから個人の質問に入ります。資料

9 ページです。寺戸議員さんは、給食における食材の調達について、地産地消から地産地消への転換が必要ではないか、必要なものを地域で作るような取組をしてはどうかというお話でした。実際、美都の調理場においてはこういった取組を計画的に行っておりまして、今後も学校給食の地場産農産物の使用については引き続き取り組んでいくという話をさせていただいております。

続いて、10 ページです。河本議員さんです。河本議員さん、匹見ご出身の議員さんですので、匹見小・中合同校舎の状況について聞かれました。非常にうまくいっておりまして、児童・生徒にも教職員にもよい影響が見られるという話をしております。教育委員会としてもさらに必要な支援を続けていくということを考えております。地域にとっても、社会教育コーディネーターを配置したというところの利点は大きいようで、学校と地域を結ぶ社会教育コーディネーターの役割というのがしっかり発揮できているのではないかと考えております。

最後に、部活動について生徒数が少ないので難しいというお話で、確におっしゃるとおりですけれども、指導者バンクなどもつくっておりますので、こういったものを活用して地域の皆様にもご協力を得られるようにしていますというお答えをしています。

続いて、高橋伴典議員さんです。資料10 ページから14 ページまで行きます。教育全般を聞かれました。高橋議員さんのおっしゃりたいことは、我々は中高一貫教育の最初の取組として算数・数学パワーアップ教室を行いました。また、高専、島大との連携協定を結んだ取組ということを令和3年度行っております。そういった流れで、理系に非常に偏った活動をしている、理系と文系を分断しているのではないかと、今は自然教育といって、科学や技術や芸術なども含んだ、総合的で課題解決型の教育が今後求められるのであって、そういった方向にシフトするべきではないかとおっしゃいました。市長のほうは、自分も同感であるというところです。ただ、市は、市の課題解決のために、医師をはじめとする理系の人材が必要で、ただそれだけではなくて、エビデンスに基づいて判断ができ、ロジカルな思考ができる、そういった人材を市は求めています。決して議員さんがおっしゃるような偏った考えを持っているわけではありませんということをお答えさせていただいております。教育に非常に特化したご質問が多かったのですけれども、通告された質問以外の質問もありました。非常にこちらもお答えしがいがあるといえますか、そういった内容のご質問であったと思っております。

続いて、資料14 ページで永見議員さんです。子どもをめぐる課題の状況と対応というところで、ご自分の資料も紹介されながら、益田市の現状はどうかということをお聞きになりました。児童虐待であるとか不登校、

ネットいじめ等の件数はどうかというところです。資料のほうには、議員さんが2016年と2020年の対比で聞かれましたので、その部分で数を入れてお答えしておりますので、またお読み取りいただければと思っております。児相や要対協としっかり関わりを持ちながら進めていますということをお答えさせていただいております。

それで、最後に各家庭でデジタル環境の格差はないのかというご質問だったのですが、本市は、通信環境に関わらない端末、最初はそれがなくても使えるという端末を導入していますので、まずそこから始めること、そして家庭学習などもそういったものでやっていただくというところを子どもたちに伝えて使ってもらっていますということをお答えしました。

続いて、石川忠司議員さんです。15ページです。これもまた、通信環境に格差があるのではないかという同じようなご質問でしたけれども、同じようにお答えしておりますし、それから通信環境というのは校内の通信環境も大切なのですが、外側の通信環境も非常に大切ですので、そういったものをバランスよく配置するように計画的にやっておりますということをお答えさせていただいております。

続いて、15ページの下段、彌重節子議員さんです。彌重議員さん、市史編さんに非常に思いを強く持っておられまして、必ず一般質問のときに聞かれます。市史編さんと公文書管理です。図書館の郷土資料収集の状況とそういった機能についてはどうかというところで、寄贈を中心に100冊前後のものを毎年収集しております。デジタルアーカイブについても着々と進めておりますというお答えをしております。

16ページに行きまして、そういったものについて、市史編さんを視野に入れた取組についてはどうかというところで、市史編さんの大きな意思決定というものは実はなされていません。そういったものが決まった際にはしっかりと対応できるように準備しますというお話をしております。

最後に、地域運営組織ということで、地域自治組織と地域マネージャーと公民館というところで、今、枠組みが違う人たちが公民館に存在しているのですけれども、そういったことに問題はないのか、事務局が同室でいいのかというお話で、以前からそういったお話はありましたので、そういった希望があるところには公民館の利用を認めていますという話をしております。

16ページの中段以降、大賀満成議員さんです。教育環境の充実というところで、これも真砂小学校のことを聞かれましたので、お答えしております。皆さん真砂小学校に対しては非常に注目度が高くて、中山間地における新たな取組という認識でおられるのだなというのが今回の一般質問でよく認識できたと思っております。ほかの議員さんと同じように、しっかりと地域づくりの一翼となるように取り組みますというお答えをしております。

ます。

2点目は、校区外就学と障害のある児童・生徒の就学先決定について聞かれました。保護者さんによっては、今、校区を設定しておりますが、それにはない学校への通学を希望される場合もありますので、そういったものを今うちが設けておる内規に基づいて、相当と認める場合には学校を替えることはできるという状況でして、そういったものに対して見直しはどうかというご質問でした。社会情勢等によっても適宜見直されるものであると思うというお答えをしております。

もう一つは、障がいのある子どもさんの就学先ですが、これは個人も特定されやすい、そして非常にデリケートな問題でありますので、一般的な流れをご説明するという流れで、保護者さんのご理解を得られるように最大限努力していきますというお答えにしております。

最後、安達美津子議員さんです。資料17ページから18ページです。給食費の値上げについては、前回のこの場で議決いただきました。その部分は議会にもご報告をしたところでございます。それを受けて、自分は反対であると、こういう時期であるからこそ、こういう時期というのはコロナであるとか、給食に対して市長も頑張っているのだから、上げた分は公費で賄うというか、無償化がいいと思っていらっしゃると思っておりますが、そういったことは難しいですというお答えにしております。

2点目のご質問は、バス通学についてですが、バス停に建物がない、もしくはバスを待つ間にどこか、風をよけたりとか雨をよけたりする、そういう場所が欲しいから、行政のほうでそういったことを対応してほしいという、そういったお話だったのですけれども、基本的にはバス停の整備はバスの事業者さんで行われるべきものであり、行政としての対応は難しいですというお答えをしております。最後に、安達議員さんは、非常に残念な回答だとおっしゃって、ここは議論が終わったのですけれども、そういったご質問がありました。

非常にざっくりとしたご説明でしたが、以上で一般質問の概要を終わります。

梅津委員

6ページの益田市型中高一貫教育のところの(1)の終わりのところの、令和4年度から市内高校連携推進事業を通してというところ、市内高校連携推進事業というのを具体的にどんなものかお聞きしたいと思います。

野村部長

この後、新年度予算のご説明をする時間を若干設けておりますので、こちらのほうでご説明させていただきたいと思っております。

梅津委員

分かりました。ありがとうございます。

中野委員

失礼いたします。8ページです。8ページの(2)2学期制導入の成果と効果のところの部分で、現在、小学校11校が導入しているということがここで見てとれまして、効果も非常にあると感じました。変わった質問

になるかもしれないのですが、令和４年度に中学校で２学期制が導入されるのかどうかというのを知りたいと思いまして質問させていただきました。

松元参事

今の質問ですけど、中学校に関しては令和４年度も導入をしないということで承っております。年度末までに申請という形で教育委員会へ申請を上げていただいて、それから認可するのですが、小学校についてはこの１１校に加えてさらに２校追加となります。

中野委員

ありがとうございます。

大庭委員

２ページのユタラボについてですけども、７つの自治体から視察があった、それから４市町でカタリバの運営があったとあるのですが、具体的にはどういった自治体それから４市町なのでしょう。

大畑推進監

自治体につきましては、ユタラボに聞いてみないと分かりませんが、件数だけ聞いております。

大庭委員

そうですか。島根県内だけではなく、県外もあるのでしょうか。

大畑推進監

両方ですね。

大庭委員

はい。それから、感想になるのですが、私もこれを見まして、高橋議員さん、教育に関してすごく本当に濃い質問をされているなと思いました。それから、質問が内容的に重なっているものがあったりするのですが、こういった分については例えば事前に調整とかというのはできないのですか。

野村部長

ご質問ありがとうございます。実は、同じようなことを何度も答えるのは、議員さん方に対しても好ましくないと思っています。ですので、議員さんにどういった趣旨で質問されるのかということを前もって聞き取ります。そのときに聞き取った経過として、質問の順番が申込み順で決まってくるので、前の議員さんはこういう趣旨で質問されるというところを事前にお伝えしながら、質問の内容について少しずつポイントを変えます。聞き取った時点で表題は同じであるが内容が違ふといったところはいいのですが、もし全く同じような内容でしたら少しポイントを変えていただくというところは、議員さんとのお話の中で可能な範囲で対応はしております。

今回、真砂に関して何人も聞かれました。全般の内容としては同じ雰囲気だと受け取られると思いますが、お答えの表現ですとかお話しする内容を少し変えて対応させていただいているというところがございます。

中には、自分も同じでいいから聞くとされる議員さんもいらっしゃいますので、そういった場合にはあらかじめお断りした上で対応するということもございます。

大庭委員

よく分かりました。ありがとうございました。

齋藤委員

２学期制のことで伺いたいのですが、今、小学校１１校が２学期導入、中学校はゼロでよろしかったでしょうか。

松元参事
齋藤委員

はい。

それで、お伺いしたいことが2つあります。1つは、中学校で導入しない理由は何なのかということと、それからもう一つは、日本の学校教育現場の忙しさは世界のトップクラスにあり益田市内の学校の先生方が何時に学校の仕事を終わって帰られるのかということです。実はしつけの問題など家庭の問題についても全部先生方へ覆いかぶさってきている状況にあって、公立学校教職員が精神疾患による病気休職者は全国で5,000人ぐらいいるので、先生方の労力を減らす努力を行政にもっとして欲しいのです。いかがでしょうか。

松元参事

まず、2学期制についてお答えします。2学期制ですが、制度としては、各学校で必要性を判断されて教育委員会へ申請を行うというところ、その申請に対して許可するというところで行っていますので、市内一律的に導入しなさいという動きではないということが前提になります。

その中で、先ほど申しましたけども、市内の小学校11校、それから来年度に向けては2校増えて、合計15校中13校が行うということになっております。中学校に関しては、希望ゼロ校、令和4年度についても今のところ実施する予定はないということで確認をしております。

その原因について直接的な調査というものを行っていないので、客観的なものではありませんが、例えば学校行事的なものであったり活動周期的なものであったり、様々な意見がありますので、客観的なデータは今のところ取っていないという現状ではあります。

田原課長

教職員の長時間労働ですけども、これにつきましては、令和元年度から毎月、時数を確認している状況でございます。その中で、令和元年、2年、3年と徐々に減ってきている状況でございます。現時点で、今年度12月時点ではありますけども、小学校で平均30時間。中学校で平均33時間となっております。

齋藤委員

その時間は1週間のことでしょうか。

田原課長

いえ、これは1か月です。

齋藤委員

1か月ですか。

田原課長

はい。勤務日数22日という形で割り算をしてみますと、1日当たり大体1.5時間、1時間半が市内の教職員の平均となっておりますので、帰宅時間が何時ぐらいかということになりますと、大体6時半から7時の間ぐらいではないかと思っているところでございます。

齋藤委員

そうすると、先ほど説明があった、多忙感を抱く教員が令和2年度は88.2%ということですが、それは何故でしょうか。

田原課長

この多忙感につきましても、平成30年のときにも調査を行っておりまして、そのときに比べると、若干ではあります。数値は下がっている状況でございます。

多忙感、早く帰れるというところに着目する場合がありますし、勤務時間の中での多忙感というところも若干あるとは思いますが、そういったものにつきましては、今後、より深く調査のほうを行っていく必要があるのではないかと考えております。

齋藤委員

すみません、これにこだわるわけではないのですが、今、学校の先生方が、私の調査では「教師をやめたいと思ったことがある」という回答が3割ちょっといます。その理由として、「とにかく忙しすぎる」「体力が持たない」「教師に向いてないと思う」などと答えています。本来の教師の仕事に戻さなければいけないのですが、益田はどうかと心配しています。

それからもう一つは、今、家に持ち帰って仕事をするなど行政は言っているのですが、それはどうですか

田原課長

確かに、多忙感につきましては、どの教員も持っていると思います。働く以上は、楽だよ、暇だよということは基本的にはないと思っておりますし、それがいい意味での多忙感につながればいいですし、それが苦痛になると、委員さんご指摘のように、勤務に対するマイナス面ということが大きくなってくると思っておりますので。そのあたりにつきましても、こちらとしましても、学校の教員の負担感が減るような形の取組は平成30年に働き方改革の指針を出していて、それに倣って、取組も進めておりますし、今後もそういった教職員の多忙感の部分を減らすように対策を行っていきたいと思っております。

齋藤委員

最後、もう一つ、そういうものに耐えられなくて途中でやめる教員が結構います。益田市内の義務教育の先生方はどうでしょうか。

田原課長

市内の小・中学校教職員、全部で400人以上おります。その中で、心身に不調を来す教員も、数名ではありますが、実際存在はしております。それと連動するののかどうか分かりませんが、早期退職も数名、毎年おられます。そういった中で、これは多忙感と連動しているのかどうかというところについては把握しておりませんが、退職まで皆さんが働き続けているという状況ではないと思っておりますのでございます。

齋藤委員

先生方の元気が出ないと、子どもも元気が出ないと思っております。それは非常に大事なことですから、質問させていただきました。

高市教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

＝全員了承＝

○報第8号 令和3年度益田市一般会計3月補正予算について

高市教育長

続きまして、報第8号令和3年度益田市一般会計3月補正予算についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

長嶺課長

それでは、これにつきましては、教育委員会内の各課、課別で簡単にご

説明をさせていただこうと思います。感染症対策・学習保障等支援事業費については、1,530万円を追加で補正をして、令和4年度に繰り越して実施します。これは100%国庫補助金ということで対応しているということです。これにつきましては、令和2年からもう4度目の補正となります。令和2年9月にまず第1弾としてやってきて、令和3年3月、昨年の3月にも補正で追加しました。今年の12月にも追加で補正をし、今回4度目となり、同じようにこれは中学校にも出てきます。各学校配分につきましては、文科省の基準に従って児童・生徒数によって配分したというものです。

続きまして、134ページ、学校再編を行いまして、通学について、再編をされた児童・生徒につきましてはスクールバスやスクールタクシーを導入しました。新年度当初、入札をして、その入札減、あるいは下校時、放課後児童クラブに通ったりすると下校の利用がないというところで減額が生じ、減額補正しております。

続きまして、138ページ、学校建設事業費です。真砂複合施設です。12月のところで、物価上昇、資材の高騰ということで1億2,200万円の補正をさせていただきました。その後、文科省とのいろいろな協議をする中で、文科省のほうから複合施設であるということで極めて高い評価をいただいている、なおかつ全国のいろんな事業の中で特にこの施設の注目度が実は高いという文科省の判断も含めて、この段階で8,089万4,000円を新たに追加措置しますと、文科省としての期待値を込めてというところの補助になっています。それがありませんでしたので、地方債を減額するという所作を行っています。

続きまして、139ページですが、先ほど言いました感染症の中学校の分です。

140ページが先ほど言いました学校再編に係るタクシー等の入札減の中学校の分です。

それから、156ページです。高津学校給食センター管理運営経費ということで、資材の高騰という部分でいきますと、よく目につくのはガソリンが上がっていますが、給食で使うガス代、こちらのほうも非常に上がっているということで、委託料が148万9,000円というのがガス代の経費の上昇分です。それと、需用費63万2,000円というのは、施設内の機材について、建設後6年目が終わります。稼働6年ということで順次直しているということです。保健所とも協議をして、壊れてから直すよりもこの春休みのうちにしっかり直したいというところで補正をさせていただいたということになっております。以上です。

田原課長

続きまして、学校教育課の3月補正の概要についてご説明をさせていただきます。まず、135ページのところです。小学校費のスクール・サポ

ート・スタッフ配置事業費ですけれども、こちらにつきましては、コロナ対策というところで、お子さん方が帰られた後の校舎内のお子さん方がよく触る場所の消毒活動を毎日1時間ないし2時間のところで全校ですけれども、行っていております。その中で、手際よく慣れて掃除をされる方もおられるなど、こちらが試算していた時数よりも実際の勤務時数が減ったということがございまして、42万7,000円ほど減額補正をさせてもらっております。

続きまして、136ページです。英語教育特別対策費。こちらのほうにつきましては、市内に4人ほどALT、外国語指導助手というものを任用させてもらっておりますけれども、そのうち2名をまず小学校費のほうで支出をしております。その中で、昨今のコロナの関係で、このうち1名は9月まで任用しておりました。もう一名につきましては、当初から来日を待っていたのですけれども、なかなか来日ができないというところで、12月に結局来日したのですけれども、その間の人件費等が下がったというところで今回減額補正をさせてもらっているところです。

続きまして、137ページ、特別支援教育対策費ですけれども、これにつきましては、各学校への授業に対する支援員の方を任用させてもらっている事業でございます。こちらにつきましては、当初26人ほど任用する予定にしておりましたけれども、市が任用する支援員と合わせまして、県が任用する、支援をいただく方がおられるのですけれども、県のほうの支援員の人数を結構多く措置をしていただきましたので、その分、小学校については任用することが必要なくなったというところで減額補正をさせてもらっているところです。

続きまして、141ページです。スクール・サポート・スタッフ配置事業費です。先ほどご説明しましたものの中学校分になります。中学校につきましても、勤務時数のほうが若干少なめで済みましたので、そのものについて減額補正をさせてもらっております。

続いて、142ページも、これも小学校費に続いてですけれども、中学校につきましても2名ほど任用しておりますが、これにつきましては、1名は丸々任用している、既に来日している者が1年間ずっといるのですけれども、もう1名につきまして、来日予定が3か月ほどずれてしまった関係で若干減額補正をさせてもらっているというところでございます。

続きまして、143ページです。こちらも小学校費に続いて、特別支援教育対策費でございます。これにつきましては、当初3名ほど任用いたしましたけれども、そのうち1名が体調を崩しまして途中で辞職されておられます。その学校につきましては、補充で任用しなくても何とかやっていたということがございましたので、必要なくなりました。そういった形で人件費のほうが少なくなりましたので、減額補正をさせてもらっている

ところでは、以上です。

144ページです。成人式、コロナ対策をするために補正をしましたが、余ったところを減額したというところでございます。次、145ページ、全国大会出場、これはコロナ等になって全国大会がかなり中止になりましたので、今年度は減額することになりました。

148ページ、これにつきましては、今年度、NHKの公開録画ではなく幼児向けの公開だけになりましたので、非常に設備等の使用が少なかったということで、当初80万円の予定が、必要なかった経費を減額させていただいたところです。

149ページにつきましては、資材高騰により増額をした補正になっております。509万1,000円の増額ということになっているところでございます。工事については、もう入札等は終わりましたので、今年度と来年度、2か年において着工それから竣工する予定になっているところでございます。

150ページにつきましては、美濃地屋敷でございますが、思った以上に替えるカヤが安かったということ等がございまして、460万円の減額ということで、工事のほうは既に完了しています。

151ページにつきましては、今年度、企画展等を実施して少し超過勤務等を増額していたのですが、スムーズに準備等ができたということで、超過勤務のところで一番大きな減額ということで減額をさせていただいているところでございます。

152ページにつきましては、これは新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんど中止になったということによる減額でございます。

153ページ、これにつきましては、勤労青少年ホームです。現在、解体それから売却等の準備をしているところでございますが、勤労青少年ホームの排水路が非常に不十分であり、民家、民地に影響を及ぼす可能性が出てきたということが分かりました。よって、排水路をどのようにつけたらいいかというための調査と設計をしていただくための業務委託を至急するというので、このたび上げさせていただいているところです。

154ページ、ふれあいホールみとにつきましては、高圧電流を引き込むコンデンサーのような大きな装置がございしますが、それが老朽化することにより至急直す必要があるということが電気保安協会の点検により発覚しました。これがうまくいかないと全ての電源が止まるということになりますので、至急ということで補正対応をさせてもらっています。油圧式エレベーターは、エレベーターが緊急停止する際に稼働するためのバッテリーが老朽化しているので、併せてこれも対処するというところになっているところでございます。

次、155ページです。これは、都茂公民館は八月、道川公民館は二月、

それから年度が終わるまでのところで転居等で公民館主事が2名、欠けている時期がございました。それと全体の共済費の減額で合わせて783万8,000円の人件費分の減額になっているところです。以上です。

山本課長

文化財課から2点ほど説明をさせていただきます。まず、146ページの歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業費です。益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会が令和元年7月に発足しました。官と民共同の委員会です。ここを母体としまして、様々な事業、例えば日本遺産事業もそうですし、また地域計画に基づくまちづくり事業等も展開しているところでございます。冒頭に教育長もおっしゃいましたが、3月15日の景観シンポジウム、こういったものは事業内容で今年度入っているといったものです。こちらの実行委員会が文化庁から直接、概算払いを受けることができましたので、もともと市が用意していた貸付金が不用になったといった理由により、171万8,000円ほど補正をさせてもらったという状況となっております。

次、147ページの三宅御土居跡整備活用事業費でございます。これは、日本遺産の構成文化財にもなっております三宅御土居跡という中世益田氏の館跡のところですが、本年度は、以前寺院が建っておりましたので、その建造物の撤去を全て行いました。それで、そのうちの施工管理費委託料と、通常は民間等の委託に出すのですが、本年度に入りまして、ほとんど建設部のほうが直営でやっていただけたことになりましたので、その分の減額です。そしてあと、実際の工事につきましては、当初、建造物が136立米ぐらい想定していたのですが、実績で103立米となりましたので、それだけ減額をさせてもらっています。合計で218万6,000円の減額補正を行わせてもらったといったところとなります。以上です。

齋藤委員

最後に説明があった御土居のことですが、上のほうに墓地が少しありますよね。あれは個人の所有の土地ですか。それともいわれのある何かお墓とかになっているのでしょうか。

山本課長

お答えします。今の齋藤委員さんがおっしゃいましたのは、土塁上の墳墓のことだと思うのですが、あちらの土地は、以前は泉光寺というお寺さんの所有だったのですが、今は益田市が全て買い上げましたので、市の所有地となっております。

齋藤委員

そうですか。

山本課長

このたびは、そこの土塁は除く、間に挟まれた広場も、もともとは泉光寺が建っていたところの建造物も全て撤去しております。

齋藤委員

何もないところですね。

山本課長

はい。

齋藤委員

分かりました。ありがとうございます。

山本課長
高市教育長
教育委員

機会があったらまたご覧いただければと思います。
それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

○報第9号 令和4年度益田市一般会計予算について

高市教育長

続きまして、報第9号令和4年度益田市一般会計予算についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

長嶺課長

それでは、これも教育委員会各課から、全部ということではなく各課のところで特筆すべきというところのお話をさせていただこうと思います。全ての事業が大体この中に網羅されているというところではありますが、まず教育総務課から、若干昨年と変わったところというところでいきますと、左側の番号571番、教育委員会の運営に係る経費というところで、備品購入費がついております。これは、タブレットを4台購入し、委員の皆さんに貸与します。いろいろな資料を基本的にこちらのタブレットで配付していきたいということでタブレットの購入経費として計上させていただいております。

続きまして、74ページです。この後、触れるところではありますが、皆さんのお手元に人事異動の表が載っております。この中で、597番、新年度より文科省へ学校の教育職員1名を文科省に派遣をさせていただいて、情報共有であったり今の全国の状況であったりということをしっかり学んでいただくということで、研修派遣経費が出ております。これにつきましては、東京で暮らすための家賃や定期的に帰って報告をいただいたりする旅費をこの中に入れているという状況であります。以上です。

田原課長

続いて、学校教育課ですけれども、令和4年度当初予算に係る主要事業概要書というものがついていると思います。ページでいいますと207ページです。学校教育課からは、5点ほど主要事業概要書を出させてもらっております。

まず、1つ目、207ページ、整理番号581番のいじめ・不登校等対策推進事業費というところですが、学校教育課といたしましては、いじめ見逃しゼロというところを目標に、各学校に対してお子さん方の見取りの部分についてしっかり対応していただくようお願いをしているところです。

その中で、この主要事業概要書の下半分のところに積算等というところがございすけれども、積算等の報酬のところそれぞれ1名とか2名とか書いてありますが、いじめに関すること、それから不登校に関することに関しまして、相談員ですとか支援員を配置しております。事例に応じて適切に対応できるような会計年度任用職員を措置しております。昨年度以

前からもついておりますけども、引き続きこういった支援員等にも協力いただきながら、まずはじめの見逃しゼロ、それから不登校の対応をしていきたいと考えているところです。

続きまして、208ページ、整理番号582番の学力育成推進事業費です。こちらにつきましても、昨年度と同様の予算になっております。3年度より7万8,000円ほど増額の、令和4年度につきましては276万3,000円が予算としてついております。こちらにつきましては、定着度調査をはじめとした学力テストなどに関する費用ですとか、学力向上に係る事業を行う部分について予算措置をしておるところでございます。

続きまして、209ページ、整理番号583番の理数系人材育成協働事業費という新たな名前で、島根大学との連携事業に関する事業です。昨年度、春休みそれから冬休みにパワーアップ教室を計6日間行ったところではありますけども、これをさらに増強いたしまして、夏それから冬それから春休みの計11日をパワーアップ教室の日にとちとして充てたいと考えております。それに係る費用としまして500万円ほど計上させてもらっているというところでございます。

続きまして、210ページそれから211ページ、両方とも、情報教育特別対策費ですけども、小学校部分とそれから中学校部分に分かれておりますので、2枚にわたって概要書をつくっております。

こちらにつきましては、各お子さん方に配付しております1人1台端末ですとか、学校の情報環境の整理に係る費用とかという形になっております。この中に各教員の執務用の端末も含まれているのですが、来年度につきましては中学校の教職員の端末のリースの更新というところもございますので、情報教育につきましても、だんだんネット環境がよくなって、子どもたちのネットの速度も速くなってきていると聞いており、今のところ半数の学校については速くなってきているというところになっておりますので、来年度につきましては、残りの半数につきましても、対応していきたいと考えているところでございます。学校教育からは以上です。

大畑推進監

212ページをご覧ください。未来の担い手につきましては、西益田小学校、コミュニティ・スクールということで、社会教育コーディネーターを配置するということになっております。1名増ということでございます。

それから、214ページをご覧ください。市内高校連携推進事業費ということで、協働のひとづくり推進課に予算がついていますが、これは、学校教育課それから農林水産課、産業支援センター、協働のひとづくり推進課、4課でこの事業を推進するということになっております。執行する権限はそれぞれについているという事業でございます。組立ては、高校、民間、それから全ての小中高の方たちが集まっているコンソーシアムにおいて、主に中高一貫につきまして、中学生に多様な特色ある高校の学びにつ

いてしっかり知ってもらうということを高校側が主体的に訴えかけをしていただくために、高校側に対して予算化をすることを通じて中高一貫をスムーズにいくようにという形でこの予算が組み立てられています。翔陽高校につきましては、農業、物づくりに関することについて、主に小・中学生に場の提供等をしていただくことに活用してくださいということで予算付けしております。益田高校につきましては、理系の人材のところに力を入れてやってほしいということで予算付けしております。それから、私立の2校につきましては、3年目になりますが、主に県外学生が、合計320名を超えている生徒が来ていますので、益田のことをしっかりもっと知る、益田ならではの教育を提供していただきたいということでご活用いただいています。

新たにもう一つできたのが、中高一貫推進・4高校連携魅力化発信業務委託料です。これは、これまで益田高校でSSH、スーパーサイエンスハイスクールでやっていたサイエンスタウンを改良していただいて、全ての4校がここに集いまして、先ほどありました、各学校で特色ある教育をやっていることを、小・中学生を集めまして、そこでしっかりと情報発信をしてもらったり、それぞれの学びの特徴あることを体験してもらったりという場をつくっていただくということを中心に据えた予算でございます。このことを来年度、中高一貫の柱として、コンソーシアムという場を生かしながら展開していくという予算が来年度の一番大きな目玉の一つになっているところです。

それからさらに、217ページ、ビジターセンターについて、最終的に来年度での竣工を目指しておりますので、その工事に係る、また備品購入に係る予算がここに提示してあるところでございます。以上です。

山本課長

それでは、文化財課の事業を説明させていただきます。79ページをご覧ください。この中で、文化財保存管理事業費から一番下まで、文化財事務費、全部で6事業あります。そのうちの歴史を活かしたまちづくり魅力発信・調査研究事業費と、あと三宅御土居跡整備活用事業費についてご説明申し上げますので、その後ろ側の215ページをまずはご覧になってください。

これは、先ほど3月補正のところでも説明いたしましたが、実行委員会の主催事業、毎年計画して行っているのですが、新年度につきましては、まちあるきマップのほうを作成したいと考えております。具体的に考えているのは、江戸時代には様々な産業が発達しておりますので、例えば、蟠竜湖疎水の開発ですとか、イグサの関係、イグサの栽培、製紙、窯業、鉱山、刀、林業などなど、そうした構成要素を散りばめたようなマップを作っていきたいと考えているところでございます。

あとは、既存のまちあるきマップの英語バージョンを作っていきたいと

考えておりまして、事業費としては227万6,000円を計上しているといったところです。

次に参ります。216ページをご覧ください。三宅御土居跡整備活用事業費です。こちら先ほどの関連になるのですが、本年度は、先ほど申し上げました、構造物を全部撤去いたしました。来年度につきましては、造成工事、土を搬入してならずといったところを計画しているところでありまして、事業費が577万2,000円となっているところでございます。以上です。

中野委員

失礼いたします。予算事業一覧表ということで、きめ細かくお示しいただきましてありがとうございました。参考までに、一般会計自体が、益田市が令和4年度、どの程度あって、それに対する教育費が、どの程度確保できたのか教えていただきたいです。全体予算が分からないところがあって、前年度比較ということも知りたいです。どれだけ教育に対して市自体が力を入れているかということも踏まえて知りたいと思っていますので、お願いします。

それから、感想ですが、私も第6次の益田市総合振興計画を策定した委員の一人でありましたものですから、今回、主要事業概要書の中に、益田市版SDGsということで、こういったことがこの事業に対して関わってくるのかというのがきめ細かく示されているので、非常にいいことだと思っていまして、非常に分かりやすいと感じたものですから、その辺は評価としてコメントをさせていただきました。

あと、もう一点ほど、協働のひとづくり推進課さんの全体事業を見ますと、結構、国庫支出金ということで国からの予算の獲得をしているというのを見てとれまして、これも財源確保のために様々なところでご尽力されているということも評価したいと思いましたので、感想を述べさせていただきました。以上です。

野村部長

ご質問ありがとうございます。令和4年度の一般会計の総額ですが、266億3,100万円でございます、総額は。前年度が259億8,400万円でございますので、6億4,700万円の増額です。教育費ですが、令和4年度の教育費につきましては21億41万7,000円。昨年度が24億8,309万1,000円ですので、減額となっております、3億8,267万4,000円の減額です、昨年比較で。本年度総額に占める割合が8%です。減った大きい原因は、真砂小学校の建設に関する事業費が、事業としては令和4年度に繰り越しておりますが、令和4年度の予算の中に表れておりませんので、その分減ってみえているというところが一番大きいかと思っております。昨年度は約10%を占める割合だったと思いますので、そういった意味で大きいハード整備の事業がなくなったことで減ってきていると認識しております。

SDGsについては、中野委員さんも関わって総合振興計画をつくっていただきまして、大変お世話になりました。評価いただけるのは大変喜ばしいことでありますので、政策企画課のほうにも伝えたいと思います。ありがとうございます。

大畑推進監
大庭委員

国庫支出金について、感想をいただいて、ありがとうございました。

219ページのところですが、益田市スポーツ協会補助金のところで、数値目標というのを私は見えていて、数値目標が出ておりますが、ここの例えば16万5,800人とか29団体とか、かなり具体的な数字になっているので、目標のときにはある程度アバウトといいますか、例えば隣の218ページのような、ブックファースト事業費ですか、そこに出ている数値目標のように、何かある程度区切りのいい数値ぐらいで出しておくのがいいのではないかと思います。かなりこれは具体的なので、数値目標として設定する中でどうされているのかと感想として持ちました。

それからあわせて、それに関連して、例えば216ページ、三宅御土居跡整備活用事業費のところの数値目標ですけども、文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度64%とありますけども、感覚的には例えば65とか70とかそのような数値で出すのがいいと思っています。あまりにも具体的なので、その辺の設定の根拠といいますか、そういったものを説明できるのであればお聞きしたと思っています。以上です。

大畑推進監

これは、利用者の5%アップを積算しております。見込み数の5%アップということで、具体的に指定管理者と特に協力しながら設定しております。

大庭委員
大畑推進監
大庭委員
山本課長

なるほど、1.05倍で掛けていますね。

はい。

はい。ありがとうございました。

ご説明します。先ほどの市民の満足度64%というところですけども、実はこの数値目標そのものが益田市の総合振興計画と連携しておりまして、それで年度ごとに課の中で話し合っただけで設定した目標数値をそのまま計上させてもらっています。ですから、ちなみに令和7年度までの計画ですので、令和7年度には70%を目指しています。徐々にシフトしていくような目標設定としております。

大庭委員
齋藤委員

よく分かりました。ありがとうございます。

予算と直接関わりはないのですが、いじめだとか不登校の子どもたちの問題が引っかかっているのですけれど、今、要保護児童対策地域協議会はどのぐらいの頻度でされているのか、またその会議でいろいろなテーマが上がってくるのでしょうか、それが具体的にどのように生かされているのか、この予算の中で見えてこないのですけれど、分かる範囲で教えてください。

田原課長

委員さんのほうからご指摘がありました要保護児童対策地域協議会、通称要対協というのですが、これにつきましては、児相が所管されているものと、それから益田市においては民生部局の子ども家庭支援課が所管している会議があります。学校教育課からは委員として出席しておりますが、そこで要対協の支援が必要なお子さん方の状況ですとかを連絡調整しながらやり取りしながら、今後どういう形で関わっていこうかというところをお話させてもらっているところです。

私が出席するものとしては、代表者会議というのがありまして、これは年に1回、昨年度の状況、それから今年度の取組の方向性をお話しする会が1回あります。それから、担当者会が1年間に7回ほどございまして、定例で近況について確認し合うというような形の会議を行っているところです。

したがって、学校教育課で示しているいじめ・不登校等対策推進事業費の中では、要対協の経費については入っていないということになっております。

齋藤委員

それで、少し気になったのは、そういう会議でいろいろなテーマが出されたものを例えば教育委員会として、福祉とか児相とかと連携を取りながらの予算化ができないかと思いました。総合的な視点で、学校を見るだけということではなくても、家庭も、地域も、それから福祉も、場合によっては警察とかを含めて、複合的な形での、現場でうまく展開されるような予算化ができないですか。

田原課長

なかなか教育費の中での予算という中では見えにくい部分ではあったかと思うのですが、基本的には、要対協で話した内容を基に、教育分野ではどのような形で改善を図っていくかということも当然この予算の中に入っております。例えばスクールソーシャルワーカー、今回2名ほど計上させてもらっておりますけれども、そういった形で各家庭への支援ですとか、公的機関とのつなぎという部分を各家庭にご指南されるというか、そういった形での活動も行っておりますし、教育の分野に関してということで、要対協の中で話し合ったことを教育費として反映するというようなことを行っています。

齋藤委員

なかなか目にしづらいところだと思います。今、多くの親御さんが家庭での悩みを抱えていますが、実は、自分の悩みを人に相談することはとても難しいところがあって、家庭のほうから相談しなさいと言っても、なかなかできないと思います。だから、もっと自由に相談ができるような体制が必要だと思います。相談所だとかへ行く、病院に行くような構えではなくて、気軽に行って何か相談できるような場所があるとか、相談ができるような人がいるとかというような、日常生活の支援からできないかと思います。

- 田原課長 ありがとうございます。まず、教育という面でいきますと、学校の教員が、お子さん方のふだんの状況が家庭の状況につながるシグナルといいですか、お子さん方のちょっとした変わり事を、先生方が把握されて、その話を聞く中で適切な対応につなげて行っているところです。
- その先という部分でいきますと、教育ではなく今度は福祉部局ということにはなってくるのですが、委員さんご指摘ありましたように、今もやっておりますけども、今後も分かりやすいような形で各家庭にも知らせていく必要があるのではないかと思いますところでございます。ありがとうございます。
- 梅津委員 先ほど質問しました市内高校連携推進事業というところは分かりました。ありがとうございます。
- それで、高校生について、県外出身者が320名いるというのがございましたけども、あと益田に残られるとか大学へ行ってまた帰ってこられるとかという現状というのはどんな状態なのかわかれば教えてください。
- 大畑推進監 基本的に、部活動をやりたくて来た子がほとんどです。ただ、東高校においても、市内のところへ就職した子等々が出ておりますので、300分の1か2かもしれませんけど、そのように出ているのは事実ですので、今後もこの事業をすることでそれが増えることを願っているところです。
- 梅津委員 ありがとうございます。
- 高市教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。
- 教育委員 ＝全員了承＝
- 高市教育長 ありがとうございます。
- それでは、以上をもちまして定例会を終わります。
- 次回は令和4年4月27日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくをお願いいたします。

＝終了時間 11時30分＝